



安全運転に必要なマナー・ジメメント 「気づき」の重要性

芝浦工業大学工学部共通学群教授 春日 伸予

安全運転に必要な気づき

安全運転をしようという強い意志を持つためには、危険を他人事ではなく自分のものとして感じる必要があります。そしてそのためには、表1に示すような気づきをもつことが重要で、中でも三段階目の「自分の運転特性と危険との関係への気づき」すなわち自分にはどのような運転特性があり、そのためにどのような事故を起こしやすいのかという気づきをもつことが必要となります。

気づきの効果

また、気づきをもつと自分をコントロールする能力が高まるという効果もあります。例えば、エコドライブによる気づきを例にとってみましょう(図1)。エコドライブを行なった後に燃費を算出すると、自分の運転成果への気づきももてます。そして、その成果をもとに自分の運転を検討し、さらなる燃費改善と安全向上のために運転の修正(自己コントロール)を行います。このサイクルを繰り返すと、やがて自分が思った通りの燃費で運転できるほどの自己

エコドライブは持続性のある安全運転

このように気づきが起こせるエコドライブは、環境に良い運転であると同時に安全運転にもなることが以前から知られていますが、さらに、通常の安全運転にはない「燃費」という目に見える報酬を与えてくれるため、ドライバーにとっては楽しみのある運転となり得ます。エコドライブは、燃費向上と環境への貢献という目に見える報酬とブライドも与えてくれるので、やりがいがある

エコドライブの成功例 グリーンエコプロジェクト

持続性のある安全運転に繋がるので

エコドライブによって環境、安全、さらには経営面でも成功を取めたのが東京都トラック協会のグリーンエコプロジェクトです。成功の秘訣としては、①手計算による燃費算出、②組織全体の情報の共有(図2)、

③管理者の育成、の三点があげられます。まず、燃費算出のたびに自分の運転への気づきが起こります。また、情報共有によって組織内に信頼関係が構築されます。さらに、管理者の指導能力が高まることで現場の士気と成果も上がります。こうした活動により、平成十八、二十一年度の累計で、金額にすると六億六千三百九十万円、CO₂削減量にすると杉の木約百二十一万本の植樹相当の

気づきの効果が薄れる ケース

燃料削減を達成し、交通事故も四〇・六%削減に成功しています。以上のように、気づきは安全向上に効果をあげますが、しかし、いくら気づきを起こしても、その効果が薄れてしまうこともあります。その原因として、飲酒などによって運転能力を低下させてしまう場合と、ド

安全運転に必要な気づき

- ① 自分の特性
自分の心理・行動特性、運転特性。
- ② 危険の具体的な内容
事故の起きる危険なパターン。
- ③ 自分の特性と危険との関係
自分の心理・行動特性や運転特性と危険パターンとの関係。

表1 安全運転に必要な気づき

エコドライブによる「気づき」効果

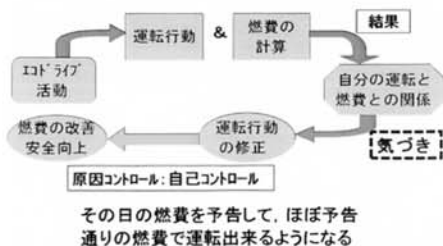


図1 エコドライブによる気づき効果

組織的な情報の共有

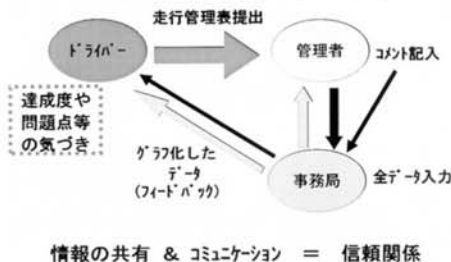


図2 グリーンエコプロジェクトにおける情報の共有

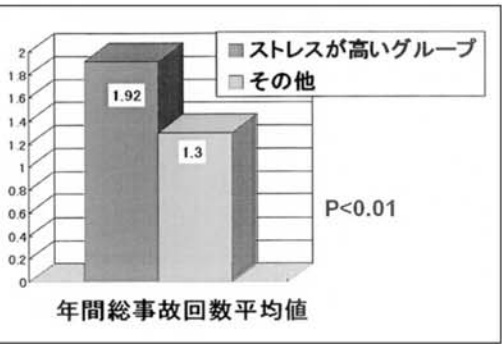


図4 ストレスと事故回数

②心理特性の影響
ハインリッヒの法則は、一件の死亡事故の背景には二十九件の重軽症事故と三百件のヒヤリハットが存在するとしています。さらに、ヒヤリハットの背景には、それを誘引する心理特性があります(図3)。
・ヒヤリハットと心理特性
ヒヤリハットに直接関係している心理特性としては、例えば、性格特性として誠実性や調和性が高いドライバーはヒヤリハットを起こしにく

最後に、今後特に必要な事故防止対策をドライバー集団の側面から触れておきたいと思っています。それは、事故が増加している高齢ドライバーの対策と、これまであまり目を向けられてこなかった性別対策です。

今後特に
対策が必要な集団

①高齢ドライバーの特徴
まず、高齢ドライバーについて新

いのですが、そうでないドライバーはヒヤリハットを起こしやすいことがわかっていました。また、ストレスが高い状態で運転するとヒヤリハットが起こりやすくなります。
・事故と心理特性
さらに、ストレスが高い場合には事故も起こりやすくなります。事故を起こした人を調査した結果、年間事故回数にそれが表れています(図4)。また、ストレスが高いと、相手の動きに対する判断が間違っただめに起こる事故が多くなることや、ストレスが高い状態で事故を起こすと、事故後に運転を避ける傾向が高くなることもわかっています。

まず、高齢ドライバーについて新

男女差については、男性は注意不足によるヒヤリハット、女性には交通弱者が関わるヒヤリハットを起こしやすいと、また、男性は女性より脇見や速度違反による事故が多く、女性

②男女の性差による事故の危険性の違い
男女差については、男性は注意不足によるヒヤリハット、女性には交通弱者が関わるヒヤリハットを起こしやすいと、また、男性は女性より脇見や速度違反による事故が多く、女性

しくわかったこととして、一般ドライバーより横方向の視線範囲が狭く、周囲に注意対象物が増えるときに視線が中央に集中するという特徴があります。この特徴のため、高齢ドライバーは、特に混雑した交差点で視線中央から外れた標識等を見落として違反や事故が起こりやすいと考えられます。今後、こうした高齢者の特徴を考慮した交通環境整備や支援を考えることが重要です。

ライバーの心理特性が影響する場合を考えてみます。
①運転能力低下の原因を自ら作っている
運転能力が低下する原因を自ら作っている場合としては、疲労や睡眠不足、飲酒などがあげられますが、中でも飲酒はあらゆる運転能力を低下させ、もちろん気づきの効果も奪



・飲酒運転の背景
飲酒運転の背景として注目すべきことのひとつに、仕事での飲酒運転が意外に多く、その大半が常習者であるということがあげられます。職場での組織的な防止対策の広がりや強化が望まれるところです。また、ドライバーの周囲にいる人は飲酒運転の可能性を認識しても、飲酒運転を止めようとするケースは非常に少なく、周囲の無関心さが飲酒運転を増長させていることは明らかです。呼気中アルコール濃度が基準値未満の少量の飲酒でも注意力が低下することがわかっていますので、ドライバーを取り囲むすべての人が飲酒運転防止の意識を高めて「飲んだら乗るな」を厳格に守ることが必要です。
・運転時の携帯電話使用
飲酒と同じように集中力を奪うものとして携帯電話があります。たとえハンズフリーでも、携帯電話使用中は脇見の回数が極端に増えます。また、運転中の携帯電話使用の危険

って事故の危険性を高めます。飲酒運転の背景には何があるのでしょうか。
・飲酒運転の背景
飲酒運転の背景として注目すべきことのひとつに、仕事での飲酒運転が意外に多く、その大半が常習者であるということがあげられます。職場での組織的な防止対策の広がりや強化が望まれるところです。また、ドライバーの周囲にいる人は飲酒運転の可能性を認識しても、飲酒運転を止めようとするケースは非常に少なく、周囲の無関心さが飲酒運転を増長させていることは明らかです。呼気中アルコール濃度が基準値未満の少量の飲酒でも注意力が低下することがわかっていますので、ドライバーを取り囲むすべての人が飲酒運転防止の意識を高めて「飲んだら乗るな」を厳格に守ることが必要です。
・運転時の携帯電話使用
飲酒と同じように集中力を奪うものとして携帯電話があります。たとえハンズフリーでも、携帯電話使用中は脇見の回数が極端に増えます。また、運転中の携帯電話使用の危険

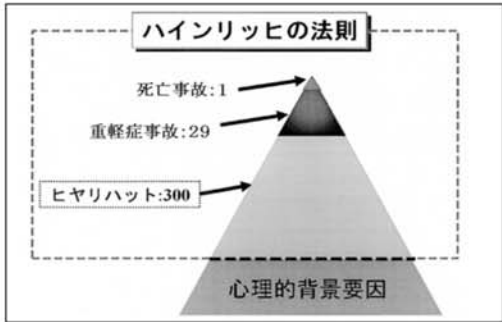


図3 ヒヤリハットの背景にある心理的要因

性を認識していない人ほど、集中力が奪われることもわかっています。特に、交差点のように運転に集中する必要がある場所では、携帯電話の危険性を認識しているドライバーは会話を中止して運転に集中するのですが、そうではないドライバーは会話を続け、危険性が高まってしまいます。したがって、携帯電話はハンズフリーであっても集中力の分散を起こすという認識を深めることが重要です。